CTG 建交労

2017 年 11 月 21 日
2017 年秋季年末闘争
神奈川県南支部 2017 年度
推進ニュース⑥通算㊺
発行責任者　佐藤　章

# 味の素物流㈱傘下企業の労働環境改善求め合同分会関東エース物流班の結成を通知！

神奈川県南支部は、味の素物流株式会社のグループ会社のひとつである関東エース物流株式会社（味の素物流 100％出資）で働くなかまで組織した合同分会つばさユニオン関東エース物流班を結成し、11 月 20 日に川崎市川崎区内の味の素㈱川崎事業所敷地内にある関東エース物流（株）に結成通知を行ないました。

当日は、神奈川県本部の伊藤執行委員長、神奈川県南支部の佐藤執行委員長はじめ、支部の大島書記長、金崎書記次長らが関東エース物流㈱を訪れる予定でした。

しかし、会社側が「社長はじめ主要な管理職が不在で建交労と会うことはできない」と面会を拒んだため、味の素㈱敷地内の会社に入ることができず、結成通知と団体交渉申入書を当該組合員のみで会社側に手渡す対応とならざるを得ませんでした。

神奈川県本部と神奈川県南支部は、こうした会社側の姿勢に対し「建交労と当該組合員に誠意をもって対応し、正常な労使関係を確立するよう」求めていきます。

# 安倍“改憲”を許さない！憲法講座を開催 新谷さん熱弁！次回講座には多数の参加を

川崎学習協会と川崎労連共催による学習会（憲法講座・全２回）が 11 月 18 日㈯に川崎市立文化教育会館で開催され、講師には神奈川県労働者学習協会の専従者として 50 年間にわたって同協会を支えてきた新谷昌之副会長を迎えました。

新谷さんは「安倍“改憲”をめぐる情勢と“改憲阻止”の展望～安倍内閣は日本国民をどこに導こうとしているのか～」と題して約２時間にわたって熱弁を振るわれ、安倍政権の危険性を指摘するとともに、政権基盤の脆弱性や“アベ政治を許さない”広範な市民の運動と野党共闘の前進がたたかいの展望を大きく開いていること、その国民的運動の中心課題として「安倍９条改憲ＮＯ！ 憲法を生かす全国統一署名」の 3000 万人集約を早期に達成することの重要性を強調されました。

この学習会には、神奈川県南支部から佐藤委員長、大島書記長、赤羽特別執行委員、関東エース物流班のなかまが参加しました。第２回目の講座は 11 月 25 日㈯18 時から同じ川崎文化教育会館で開催されます。

世界に誇る日本国憲法を守り活かすことは、憲法に保障された労働組合の基本的な運動です。同日は支部執行員会を開催しますので、支部執行委員は会議後に同講座に参加しますが、各分会からも多数のなかまが参加するようにしてください。

# 年末一時金闘争の強化・到達状況の報告を！

2017 年の年末一時金闘争は最終盤に入りつつあります。各分会は今後の統一闘争【22 日・24 日】【12 月 6 日～7 日】【13 日～14 日】へ結集を強めて年末一時金闘争の前進をめざすと同時に、闘争状況を支部に報告するよう徹底してください。

ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名

# 被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

人類は今、破滅への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。

1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の２発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。

人類は、生物兵器、化学兵器について、使用、開発、生産、保有を条約、議定書などで禁じて来ました。それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたとあなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

2016年4月

よびかけ被爆者代表：坪井直、谷口稜曄、岩佐幹三（以上、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）・代表委員）、田中熙巳（日本被団協・事務局長）、郭貴勲（韓国原爆被害者協会・名誉会長）、向井司（北米原爆被害者の会・会長）、森田隆（ブラジル被爆者平和協会・会長）、サーロー・セツコ（カナダ在住）、山下泰昭（メキシコ在住）

## 私は被爆者の訴えに賛同して署名します

| 名　　前 | 住　　所 | 募金 |
|---|---|---|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

ご記入いただいたお名前や住所など個人情報は、この要請目的以外には使用しません。みなさんの署名は、毎年の国連総会に提出いたします。

【取扱団体】
原水爆禁止日本協議会
〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4　☎03-5842-6031